

みんなで作る ひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする
取り組みを紹介します。



「チャリティーショップ」は、市民から寄付されたまだ使える物を販売し、その利益を非営利活動に活用しているんだ。日本ではまだなじみが薄いけど、欧米や韓国では広く普及しているよ。今回は神戸市長田区や加古川市でチャリティーショップをしている「フリーヘルプ」を紹介するよ。

地域課題に協働でアプローチする

NPO法人フリーヘルプ(以下、「フリーヘルプ」)は、古着の卸売りに携わっていた西本精五理事長が欧米での古着の買い付けを通して知ったチャリティーショップを日本でも展開していききたいとの思いから、平成21年に取り組みがスタートし、翌年にNPO法人の認証を受けた。

明るくおしゃやかな店内には、市民から寄せられた衣服やかばん等がセンス良く並べられ、つい立ち寄りたくなる雰囲気だ。フリーヘルプでは、地域の方々から寄付を受けた衣服等を販売して得た収益金等を活用し、身近な地域課題の解決に取り組んでいる。

例えば、長田店では、母子家庭を支援する団体が手掛ける「シングルマザーと子どもの居場所づくり事業」に継続して寄付するほか、障害者支援団体と共に障害者の一般就労に向けたトレーニングの場として店舗を活用している。また、東加古川店では、生活困窮者支援団体と協力して「東播磨地域の生活にお困りの方々の相談・居場所づくり事業」が展開さ

身近な資源を活用して 地域の課題と向き合う

～誰でもできる支援～

れ、相談だけでなく、軽作業や昼食を楽しむ交流会が実施されている。このようにフリーヘルプは、専門性を持つ団体と協働し、生活する上で課題や困難を抱える地域住民への支援に取り組んでいる。活動のキーワードは「フリーヘルプでしかできないことをやる」。その言葉通り、行政や企業では手の届かない地域課題への支援が展開されている。

チャリティーショップをもっと身近に

日本では、まだ少ないチャリティーショップだが、イギリスやアメリカではボランティアグループ・NPO法人等の活動資金獲得、ボランティア活動の場として広く普及している。

西本理事長は「今後は、非営利活動を行う団体の自主財源として活用で



長田店の外観。店頭の黒板には、寄せられた寄付金額が報告されている



ふらっとホーム東はりまの食事会(東加古川店)

取材を終えて

古着という身近なものが、チャリティーショップを通じて困っている人への支援につながることに印象的でした。フリーヘルプの活動を取材する中で、西本理事長の「誰かのために行動を起こす」という強い思いを実感することができました。

特定非営利活動法人フリーヘルプ

長田店: 神戸市長田区腕塚町5-3-1アスタくにづか1番館南棟

TEL:078-611-5881

東加古川店: 加古川市平岡町新在家29-7

TEL:079-421-3755

きるようチャリティーショップという収益モデルを発信していきたい。そのためには、誰もが気軽に身近なものを寄付することで社会貢献ができるという意識への転換を促し、チャリティー文化を醸成させていく必要がある」と語る。

今後、チャリティーショップが普及し、地域の課題を地域で解決する仕組みが数多く生まれることを期待したい。